

令和4年度 浜松医科大学数理データサイエンスプログラム自己評価

令和5年4月28日

次世代創造医工情報教育センター運営委員会

評価の視点	自己評価
プログラムの履修・修得状況	<p>医学科においては「データサイエンス」「数理科学Ⅰ」、看護学科では「保健統計学」が本プログラムを構成する科目となっている。全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>プログラムの修了状況は医学科112人/113人、看護学科67人/67人であり、ほとんど全ての学生が修了している。</p>
学修成果	<p>授業評価アンケートの学習目標の達成の項目において、5点満点中「データサイエンス：4.17」「数理科学Ⅰ：4.42」、看護学科では「保健統計学：4.25」と非常に良好な結果となっており、シラバスに記載された学修目標が達成されている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>上記以外の授業評価アンケートの各項目「授業の満足度」「授業内容の理解」についても5点満点で4点前後の良好な結果となっている。</p> <p>一方「教員と双方向のやり取り」の項目については3.62と若干他項目より低い評価となっており、オンライン授業の工夫や質問等を受け付ける体制の拡充を検討する。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>また、学生の授業評価アンケート結果を次年度以降の授業内容の参考として、後輩等他の学生が受講しやすい授業としている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>入学直後に実施する「新入生オリエンテーション」において、当プログラムの概要について説明するとともに、医療における数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術の必要性について周知している。</p> <p>また、次世代創造医工情報教育センターのHPで当プログラムへの取組を紹介し学生に周知している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>卒業生は医療業務に携わる者がほとんどであり、本学附属病院所属の現場の医師・看護師の意見を反映させた、医療現場を踏まえたプログラムとしている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>医療現場における数理・データサイエンス・AI活用の重要性を授業で周知するとともに、最先端の事例をとりあげて学生の興味を引く講義内容となるよう工夫している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>動画教材を多数活用し、数理・データサイエンス・AI教育の基本部分の補足となるよう考慮している。また、授業評価アンケートを分析し、学生の理解が不十分であった部分については次年度以降の課題として講義内容の改善を実施している。</p>